

# 天然自然の摂理～元の理～

2021.1.28 ver.

-作成途中- ©小林真

人間が生きる意味。それは人を助け楽しませ、遊び心の中に喜び勇む道、「陽気遊山」にある。自分の身体、又、この世の全ては、陽気遊山の為に借りている物で、心のみが自由な存在である。心が自ら陽気遊山に向かう時、現実はすぐに変わり始める。この図表は、世の中の事象・現象を全て解き明かすものである。深く思案してみてほしい。

どんな道も、案じ心は持たぬよう。※「理」=事実、要因

どんな時も、この身、全てを借りていることを忘れない。

どんな小さな事象にも、自分にとって何かの意味がある。

十柱の働きには、「陰の働き=神」主体(陽3:陰7)のものと「陽の働き=人間」主体(陽7:陰3)のものが存在する。

自分ではなく、周りを立てる心。普段は見えない陰で下から支え、大事な所で俊敏に足を運びつぱって支える。局面を見極める洞察力と仲間(他の骨)との密接な連携が欠かせない。

足の役割。頭低く、影で下の方から支える柱の働き。  
ここぞという所で俊敏に硬化する働き。

物事が治まる理。

物事の道理に沿って、時に引き出し、成長をもたらす状態。  
-引き出し3割の意識加減-  
不足:  
物事の表面部分が目について、隠れた長所や本質を引き出せない状態。また道理に反し、引き出し方に無理がある状態。

ぬくもりが陰の働きを引き出す、実りの働き。

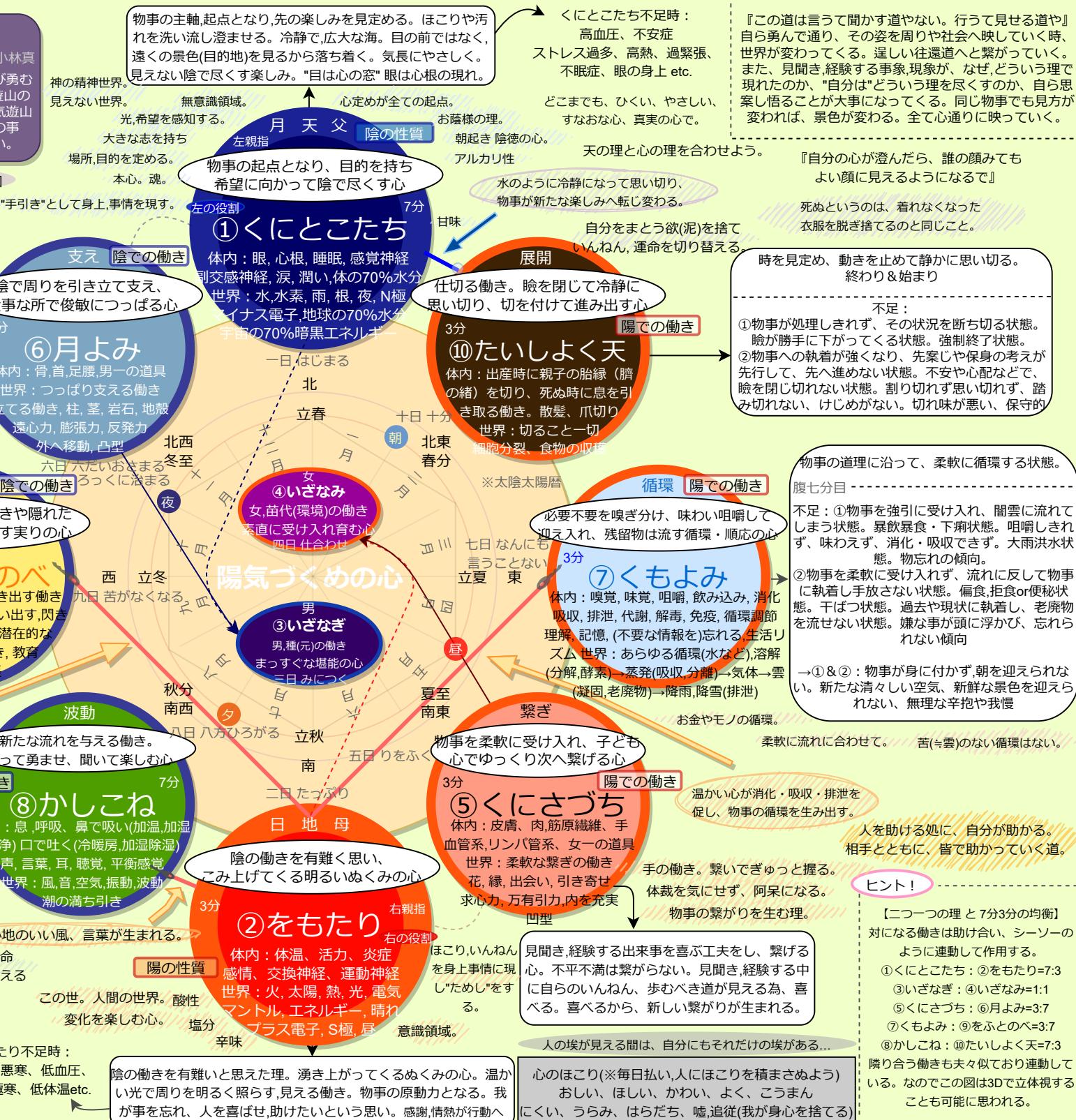
動植物の成長は、日光によって引き出される。

聞き上手が話し上手に。耳を傾け、勇み心を八方へ。

耳を傾け平衡を持っていく。心地よい流れを与える。  
不足: ①受け手にとって、風がしつこい状態。暴風状態。声や思いが通らない。受ける側は身動きが取れず、聞き分け、嗅ぎ分けできない。肥(声)をやり過ぎ、乾いて枯れた状態。

②受け手にとって、風通しが悪い状態。言葉足らずで心がじめじめと腐る状態。湿気、陰気臭い、しけた顔、ため息、虫がわく、カビ。また過度に閉め切る為に鳴る、金切声(耳障り)の状態。陰口、愚痴、毒を吐く、愛想尽かし、切り口上、捨て言葉、誹謗中傷、悪口を聞く

挨拶は風の働き。声は肥。相手の状態に合わせて自ら吹かそう。柔軟にかける言葉は変えよう。



『この道は言うて聞かず道やない。行うて見せる道や』  
自ら勇んで通り、その姿を周りや社会へ映していく時、世界が変わってくる。逞しい往還道へと繋がっていく。また、見聞き、経験する事象、現象が、なぜ、どういう理で現れたのか、"自分は" どういう理を尽くすのか、自ら思案し悟ることが大事になってくる。同じ物事でも見方が変われば、景色が変わる。全て心通りに映っていく。

『自分の心が澄んだら、誰の顔みてもよい顔に見えるようになるで』

死ぬというのは、着れなくなった衣服を脱ぎ捨てるのと同じこと。

時を見定め、動きを止めて静かに思い切る。終わり & 始まり

不足:  
①物事が処理しきれず、その状況を断ち切る状態。瞼が勝手に下がってくる状態。強制終了状態。  
②物事への執着が強くなり、先案じや保身の考えが先行して、先へ進めない状態。不安や心配などで、瞼を閉じ切れないのである。割り切れず思い切れず、踏み切れない、けじめがない。切れ味が悪い、保守的

物事の道理に沿って、柔軟に循環する状態。

腹七分目 -  
不足: ①物事を強引に受け入れ、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食・下痢状態。咀嚼しきれず、味わえず、消化・吸収できず。大雨洪水状態。物忘れの傾向。  
②物事を柔軟に受け入れず、流れに反して物事に執着し手放さない状態。偏食、拒食 or 便秘状態。干ばつ状態。過去や現状に執着し、老廃物を流せない状態。嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向

→① & ②: 物事が身に付かず、朝を迎える。新たな清々しい空気、新鮮な景色を迎える。お金やモノの循環。

柔軟に流れに合わせて。苦(=雲)のない循環はない。

人を助ける処に、自分が助かる。  
相手とともに、皆で助かっていく道。

ヒント!

【二つの理と7分3分の均衡】  
対になる働きは助け合い、シーソーのように運動して作用する。

- ①くにとこたち: ②をもたり = 7:3
  - ③いざなぎ: ④いざなみ = 1:1
  - ⑤くにさづち: ⑥月よみ = 3:7
  - ⑦くもよみ: ⑨をふとのべ = 3:7
  - ⑧かしこね: ⑩たいしよく天 = 7:3
- 隣り合う働きも夫々似ており運動している。なのでこの図は3Dで立体視することも可能と思われる。